WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」
月間運用実績レポート（2026年5月）

■ パフォーマンス

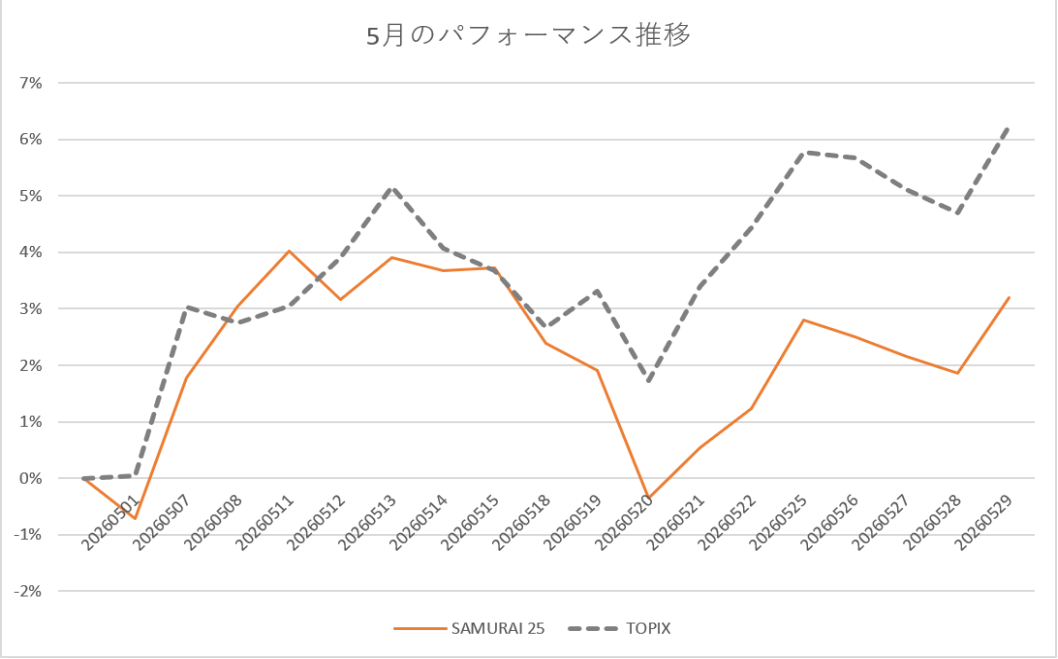
➢ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	+3.19%

➢ 各指標の月間騰落率

TOPIX	+6.17%	（配当込み）	+6.24 %
日経225	+11.88%		
NYダウ	+2.78%		
S&P500	+5.15%		
NASDAQ	+8.36%		

➢ 5月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	3.19%	-8.17%	13.89%	54.10%	224.73%
TOPIX	6.24%	1.52%	18.54%	44.55%	157.51%
超過収益	-3.04%	-9.69%	-4.65%	9.55%	67.22%

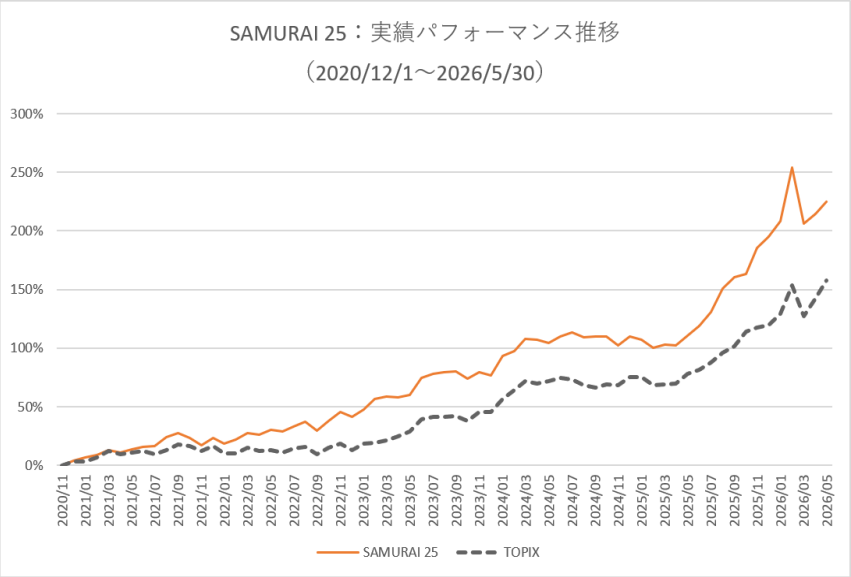
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

SAMURAI 25の5月の運用成績は+3.19 %（配当込み）、TOPIX +6.24 %、対ベンチマーク比で▲3.04%となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

- **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

  SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年5月末までの運用実績です。



※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	10.01%	17.33%
累積リターン(2020/12-2026/5)	224.73%	157.51%

リターン（年率換算）	23.88%	18.77%
リスク（年率換算）	14.43%	12.46%
下方リスク(年率換算)	7.62%	6.80%
シャープ・レシオ	1.66	1.51
ソルティノ・レシオ	3.13	2.76

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■5月の市況概況

➢ 日本市場

5月の日本市場は、政府・日銀による過去最大規模の為替介入や国内長期金利の急上昇といったマクロ環境の変動をこなしながら、米株高と連動する形でAI半導体関連株が牽引する展開となりました。大型バリュー株への資金流入も観測されるなど物色の広がりが見られ、日経平均株価・TOPIXともに史上最高値を更新する力強い相場環境となりました。

・第 1 週（5月1日～5月8日）／日経225 +5.78% TOPIX ： +2.74%

日経平均が過去最大の上げ幅を記録し6万2,000円台へ

連休中の米ハイテク株高や中東情勢への過度な警戒感の後退を背景に、日経平均株価は5月7日に前日比3,320円高と過去最大の上げ幅を記録し、6万2,000円台に乗せました。為替市場では政府・日銀による過去最大規模の円買い介入が断続的に実施されたと推測され、ドル円は一時155円台まで急騰する神経質な展開となりました。一方、企業決算ではソニーグループの巨額自社株買いなどが市場の安心感に繋がりました。

・第 2 週（5月11日～5月15日）／日経225：△2.08% TOPIX ： +0.90%

長期金利が29年ぶり高水準へ上昇、日経平均は一時6万3,000円台

日経平均は一時6万3,000円台を突破し最高値を更新したものの、その後は利益確定売りに押されました。日銀の追加利上げ観測や、補正予算編成に伴う財政拡大懸念から債券が売られ、10年物国債利回りが一時2.8%と約29年ぶりの高水準に達しました。フジクラの業績見通し下振れによるAI関連株の急落などボラティリティが高まる一方、金利上昇局面で買われやすい金融や商社などの大型バリュー株に資金が流入しました。

・第 3 週（5月18日～5月22日）／日経225：+3.14% TOPIX：+0.74%

半導体企業の好決算が相場を牽引

日経平均は6万円を割り込む場面があったものの、その後は米国株高やNVIDIAの好決算を受け急反発しました。特に、キオクシアHDの4-6月期純利益が前年比48倍に達するとの驚異的な見通しが発表され、AIデータセンター向けのメモリや電子部品関連への物色が拡大しました。イランとの戦闘終結期待も投資家心理を好転させ、日経平均は再び6万3,000円台に回復しました。

・第４週（5月25日～5月29日）／日経225：+4.72% TOPIX：+1.66%

日銀の政策見極めが交錯も、6万6,000円台に到達

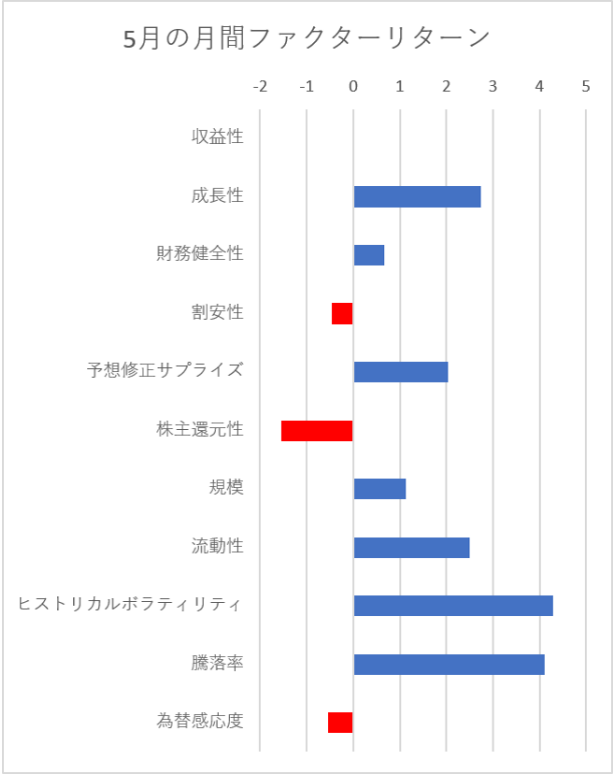
財務省は直近1カ月間の為替介入実績が過去最大の11.7兆円だったと発表しましたが、日米金利差や貿易赤字などの構造的要因から円安圧力は根強く、ドル円は159円台で推移しました。日銀の上田総裁が原油高の波及を多角的に見極める姿勢を示したことで、6月会合での利上げ観測を巡る市場の思惑が交錯しており、インフレへの警戒感が持続しています。しかし、日経平均はAI関連株の牽引により月末には6万6,000円台に到達しました。

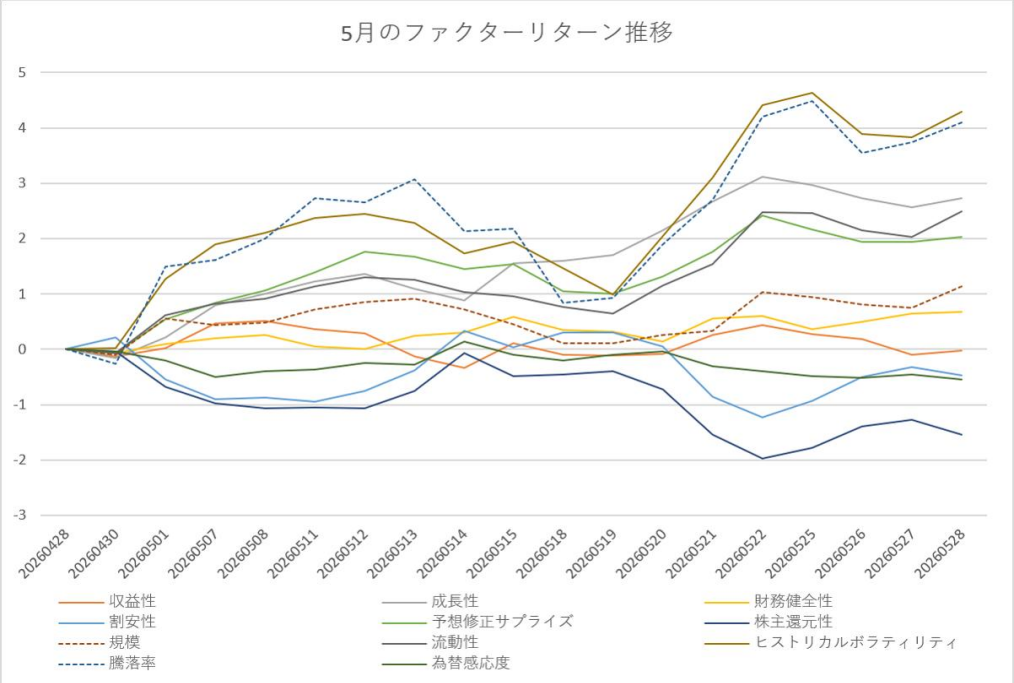
月間パフォーマンスの背景

- ファクター動向

5月も、好業績で上昇が続くハイリスクのグロース株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、ヒストリカルボラティリティファクター・騰落率ファクター・成長性ファクター・予想修正サプライズファクターがプラスとなる一方、株主還元性ファクター・割安性ファクターがマイナスとなり、好決算が続くAI・半導体関連のグロース株が堅調となる一方、原油高によるインフレ・景気下振れの影響が懸念されるバリュー株が軟調となるなか、４月と同様、好業績で上昇が続くハイリスクのグロース株へ資金が向かったことが見て取れます。





- ファクター寄与度

そのような市況環境のなか、**SAMURAI 25は**、市場平均であるTOPIXをアンダーパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアンダーパフォームした要因は、
SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性が大きくマイナスに寄与、さらに、市場平均よりも「アンダーウエートしているヒストリカルボラティリティファクター（＝低リスク特性）」もマイナスに大きく寄与し、グロース要素の「高収益・高成長」特性だけではこれらマイナスを賄えなかったためです。

4月と同様、５月も米国市場に呼応する形となり、一部のAI・半導体関連銘柄へ大量の資金が集中する一方で、原油高等のインフレによる景気下振れからの業績悪化が懸念される銘柄群との二極化が猛烈に加速しました。
そのため市場では、「ハイテク株比率の高い日経平均が優位、景気敏感株の多いTOPIXが劣位」という構図が続いており、同様に「グロース優位、バリュー劣位」の状況も顕著で、まさに「股裂き」とも言える、強い二極化の様相を呈しています。

AI関連銘柄の成長性の高さは誰もが否定するものではありませんが、無限の成長を織り込み続けることは、もはや、バブルに近い発想であり、「上がるから買う、買うから上がる」という上昇モメンタム（勢い）を追う投資は、ひとたび買い手が引けば急落につながるハイリスクなものです。

SAMURAI 25は、守りの「高配当・割安」特性、攻めの「高収益・高成長」特性、そして株価の起爆剤（カタリスト）となる「業績上方修正」特性を兼ね備えた、バランスの良いポートフォリオを運用し続けており、価格変動が大きな市場環境において、これまでも実績を残してきました。

バランスの良い「本質的価値のある銘柄群を保有する」という運用哲学を変えることなく、実績ある運用戦略を一貫して行うことが重要と考えています。

➢ **個別銘柄寄与度**

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度
1	5334	日本特殊陶業株式会社	6.1%	1.178%
	スパークプラグや車載用センサなどの自動車関連部品、およびICパッケージやセラミック工具などのテクニカルセラミックスを展開。スパークプラグでは世界トップクラスのシェアを誇ります。 2026年3月期決算では、売上高・利益ともに過去最高を記録するなど非常に好調でした。中長期的な収益力や高配当が評価されています。			
2	4188	三菱ケミカルグループ株式会社	3.4%	0.875%
	国内最大の総合化学メーカー。機能商品（高機能フィルム等）、素材（石化製品、炭素繊維）、産業ガス、ヘルスケア（医薬品）など多角的に事業を展開しています。2026年3月期決算では、大幅な減益となりましたが、2027年3月期（今期）は一過性のマイナス要因の解消に加え、構造改革の成果により純利益がV字回復する会社予想を発表しています。			
3	6954	ファナック株式会社	4.9%	0.682%
	工場自動化（FA）のグローバルリーダー。工作機械の頭脳となる「CNC装置」や「産業用ロボッ ト」「ロボドリル（小型切削加工機）」で世界トップクラスのシェアを有します。2026年3月期は製造業の設備投資抑制の影響を受けましたが、 2027年3月期（今期）の会社予想では自動化投資の回復を背景に反転攻勢（増益）の見通しを出しています。FA・ロボット市場のボトムアウト（底打ち）と中長期的な自動化需要の拡大が評価されています。			
4	6473	株式会社ジェイテクト	2.8%	0.676%
	トヨタグループの大手部品・機械メーカー。自動車の「ステアリングシステム」や「軸受（ベアリング）」「工作機械（豊田工機がルーツ）」を主力としています。構造改革を進めてきた同社ですが、2026年3月期は自動車減産などのあおりを受け営業利益が低迷しました。しかし、2027年3月期（今期）の会社予想では、コスト削減の浸透や自動車生産の回復から営業利益・純利益共に急回復させる計画を発表しました。直近の決算で示された業績回復シナリオと割安な株価水準が評価されています。			
5	8015	豊田通商株式会社	4.3%	0.555%
	トヨタグループの総合商社。自動車・部品の輸出入や現地生産支援を核に、金属、化学品、エレクトロニクス、さらにアフリカ地域での独自のインフラ・小売ビジネス、再生可能エネルギー（洋上風力など）に強みがあります。トヨタ自動車の世界生産が堅調なことを背景に、自動車バリューチェーン事業が非常に安定して推移しています。また、世界的な脱炭素シフトの中で再エネ事業への投資を加速しています。他商社に比べて「資源（市況）依存度」が低く、自動車関連という強固な収益基盤と、成長市場である「アフリカ」「グリーンインフラ」での先行優位性が評価されています。			

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

   予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

   特色１：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

   特色２：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

   特色３：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

   特色４：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

   ・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

   「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。

自然災害への備え		株式市場暴落への備え
地震は誰も予測できないが必ず起こる	→	暴落は誰も予測できないが必ず起こる
その時、いかに被害を少なくするか（リスク管理）		その時、致命的な損失を受けない（リスク管理）
いかに速く復旧できるか（現状回復力）が重要		いかに速く損失を取り戻すか（損失回復力）が重要

   ・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

   「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

   ・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

   ソルティ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

   ※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

   「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています

③ 特定業種に偏重しないようにしています

④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています

⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 6月4日時点の情報に基づき作成されております。

（提供：株式会社スマートプラス）

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

＜業務内容について＞

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

＜手数料など諸費用について＞

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

• サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。 ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Ｊトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会